

サステナ経営検定2級第10回試験正答

問題1 サステナブル経営には4つの領域があるが、下記の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

ソフトロー対応（行動規範）は広義のコンプライアンスである。（9 ページ 図表 1-2）

公式テキスト： 1-1 なぜサステナブル経営が重要なのか

問題2 「世界のサステナビリティの流れ」に関する下記の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ

「顧客、従業員、サプライヤー、地域コミュニティ、株主をステークホルダーとして、それぞれに価値をもたらすこと」と公表した。（17ページ）

公式テキスト： 1-3 世界のサステナビリティの流れ

問題3 「欧州のサステナビリティ戦略」に関する下記の文章の空欄に該当する語句・数字のうち、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ア

公式テキスト： 1-4 欧州のサステナビリティ戦略（20, 21 ページ）

問題4 「生物多様性」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：イ

（「気候変動枠組条約締約国会議 COP21」ではなく、「生物多様性条約締約国会議 COP15」が正しい）

公式テキスト： 2-4 生物多様性/水資源の保全（48 ページ）

問題5 「ソフトローからハードローへ」に関する下記の記述のうち、適切なものはいくつあるか。

正答：イ

適切は1と4。不適切は2と3。2. は KPI サイクルでなく、PDCA サイクル（29 ページ）、

3. は MSC 認証でなく FSC 認証（30 ページ）

公式テキスト： 1-7 ソフトローからハードローへ

問題6 「ESG 投資」に関する下記の文章の空欄に該当する語句として、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：エ

公式テキスト： 1-4 欧州のサステナビリティ

2-1 ESG 総論

問題7 「脱炭素への流れ」に関する下記の記述のうち、適切なものはいくつあるか。

正答：ウ

適切は、2と3と4。不適切は1。「世界の気温上昇を1.5℃に抑えることは不可能である」（39 ページ）

公式テキスト： 2-2 脱炭素の流れ

問題 8 「ビジネスと人権」に関する下記の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答： イ

「欧米は義務化の方向にあるが、日本は、まだ、義務化計画は進んでいない」(55 ページ)

公式テキスト： 2-5 ビジネスと人権

問題9 「コーポレートガバナンス・コード (CGC)」に関する下記の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答： ア

細則主義でなく、原則主義。(58 ページ)

公式テキスト： 1-5 日本のサステナビリティの流れ

2-7 コーポレートガバナンス・コード

問題 10 「サーキュラーエコノミー」に関する下記の文章の空欄に該当する数字のうち、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答： ウ

公式テキスト： 2-3 サーキュラーエコノミー (46, 47 ページ)

問題 11 サステナビリティ及び CSR を経営に統合するための必須 3 要素の説明として、当てはまらないものを一つ選べ。

正答： イ

(ここでの「必須 3 要素は「ビジョン」「システム」「教育」であり、「マテリアリティの特定」は含まれない)

公式テキスト 3-1 サステナビリティ/CSR マネジメントの考え方 (70 ページ)

問題12 企業のサステナビリティ担当部門が、推進体制を構築するにあたっての重要なポイントとして、適切なものはいくつあるか。

正答： ウ

(1 が不適切：行動規範の策定にあたっては、サステナビリティ及び CSR に関するイニシアティブを参照し、グローバル規範及び国内規範も活用すべきである) (72 ページ)

公式テキスト： 3-2 CSR のビジョン確立、システム構築、教育 (72-74 ページ)

問題 13 サステナビリティ及び CSR のマテリアリティの特定に関する下記の文章の空欄に該当する語句のうち、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答： エ

公式テキスト： 3-3 マテリアリティの特定 (75-76 ページ)

問題14 サステナビリティ及びCSRのマネジメントにおける指標の設定に関する下記の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ア

（ア：達成可能性よりも、まず長期的な視点で「達成すべき状態」あるいは「ありたい姿」を描き、次にどうしたらそれを実現できるのか、そのために今何をしたらよいかを考えることが肝要である）（78ページ）

公式テキスト：3-4 CSR 指標の設定とインパクト評価（78-79 ページ）

問題15 ステークホルダーとのダイアログに関する下記の記述のうち、適切なものはいくつあるか。

正答：イ

（2と4が不適切な箇所。2：ステークホルダーとのダイアログは、「ディスカッション」や勝ち負けを決める「ディベート」とは異なり、より創造的で協働的なコミュニケーションである。4：機関投資家向けの日本版スチュワードシップ・コード、上場企業向けのコーポレートガバナンス・コードでも強調されている「建設的な対話」を行えるよう、起業家と投資家の両方に「対話力」が問われている）（82 ページ）

公式テキスト：3-5 ダイアログとエンゲージメント（81-83 ページ）

問題16 企業に対するステークホルダーの期待・要請に関する下記の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

（ウ：政府や自治体は、関連する法令の順守や適切な納税などを基本的に期待し、法令違反ではなくとも本来得られるべき税収の低減につながるため、強い関心の対象となる）（85 ページ）

公式テキスト：4-1 重要なステークホルダーの視点（85-86 ページ）

問題17 サステナビリティ経営及びCSRにおけるNPOやNGOの役割に関する下記の文章の空欄に該当する語句・数字のうち、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：イ

公式テキスト：4-2 サステナ経営／CSRにおけるNGO／NPOの役割（87-88 ページ）

問題18 国際環境NGOであるグリーンピースの「IDEAL（理想）原則」は5段階からなる概念であり、最後は「Lobby（交渉する）」であるが、これより前の各段階を示す単語として不適切なものを一つ選べ。

正答：ア

公式テキスト：4-3 NGO／NPOによる企業評価（89 ページ）

問題19 消費者の役割に関する下記の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ

（エ：認証ラベルは、製品の特定の側面だけに焦点を当て、それが担保されていることのみを保証するものであるため、製品全体を評価できるほど万能ではない）（94 ページ）

公式テキスト：4-4 消費者の役割／エシカル消費／サステナブル消費（93-94 ページ）

問題20 現在の企業のCSR（ESG）情報開示に関する下記の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

（ウ：閉鎖的な質問状スタイルでは開示プロセスの透明性を保つことができないことから、現在では、客観

的に分析可能な企業の公開情報のみに基づく評価スタイルに対応し、国際的にも認められている方法に基づき開示することが求められている) (97 ページ)

公式テキスト：4-5 株主・投資家としての責任

問題21 統合報告に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

正答:ア

(イ：細則主義ではなく原則主義である。ウ：業種により「アウトプット」と「アウトカム」は明確に区分できないとして、改訂で「インプット⇒事業活動⇒アウトカム」の流れが追加された。エ：統合報告はサステナビリティを経営に統合することであり報告書のスタイルの問題ではない)

公式テキスト：5-1：統合報告 (100-103 ページ)

問題22 国際サステナビリティ基準審議会 (ISSB) に関する次の記述のうち、不適切なものを1つ選べ。

正答:ウ

(ISSB のスタンスは、「財務的マテリアリティ」に焦点を当てる「シングル・マテリアリティ」である)

公式テキスト：3-3：マテリアリティの特定 (77 ページ)、5-2：IFRS と ISSB (104-105 ページ)

問題23 GRIについて、下記の文章の空欄に該当する語句で、最も適切な組み合わせを1つ選べ。

正答：エ

公式テキスト：5-3 GRI (106-108 ページ)

問題24 「アウトサイド・イン」アプローチのうち、最も不適切なものを1つ選べ。

正答:イ

(アウトサイド・インは決して大企業だけのものではない。業種や規模を問わず、アウトサイド・インの発想を広めることが重要だ)

公式テキスト 1-2 サステナ経営に求められる思考と行動

問題25 「パーパス」についての記述で、最も不適切なものを1つ選べ。

正答:エ

(「経営学者マイケル・ポーターの主著」ではなく、「経営学者ピータードラッカーの主著」)

公式テキスト1-8 「パーパス」(存在意義)の重要性